

◎ 彙報

第四三回原爆文学研究会

○日時 二〇一三年二月二十八日(土) 一三時より

○会場 福岡大学セミナーハウスセミナー室A

○研究発表

アフリカ・原爆・阿部知二

——雑誌『銀の鈴』における連載「暗黒に光を」をめぐって

波瀾剛

放射能被災という出来事の可視化(経験)をめぐって

——「感傷」の可能性を考える

畑中佳恵

堀田善衛『審判』論

——原爆投下の罪と裁き

水溜 真由美

第四四回原爆文学研究会

○日時 二〇一四年三月一日(土) 一三時より

○会場 西日本総合展示場新館315会議室

○研究発表

坂井米夫『アメリカ便り』に見る原水爆と原子

——占領下NHKラジオ言説の一端

坂口博

被爆者対象の変遷

——1950年代と1960年代のポピュラー文化をてがかりに

山本 昭宏

○「はだしのゲンが見たヒロシマ」上映

「はだしのゲンが見たヒロシマ」をめぐる対話

石田 優子

渡部 朋子

渡部 久仁子
楠田 剛士

第四五回原爆文学研究会

【一日目】二〇一四年八月二日(土) 一三時より

○会場 名古屋大学大学院国際開発研究科第一会議室

○研究発表

プロキノと映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』をつなぐもの——焦土の撮影とその前史をめぐって——

雨宮 幸明

三・一一以後の原爆文学と原発表象をめぐる理論的覚書その3

——現代小説を題材に「核」と「内戦」について考える——

柳瀬 善治

講話 図書館の自由をめぐって

——「原爆と差別」事件から「はだしのゲン」「アンネの日

記」問題まで——

西河内 靖泰

○「戦後70年」連続ワークショップI

原爆文学「古典」再読1——井伏鱒二『黒い雨』

司会者から

中野 和典

発題1 奇妙な? 「土気称揚」——『黒い雨』と『重松日記』

齋藤 一

発題2 「黒い雨」とベトナム戦争

中谷 いずみ

○「戦後70年」連続ワークショップII

原爆体験の〈表現〉と〈運動〉——60・70年代を中心に

川口 隆行

報告1 被爆体験を〈書く〉——山代巴と『原爆に生きて』

「この世界の片隅で」を中心に——キアラ・コマストリ

小沢 節子

報告2 「原爆文献を読む会」とは何だったのか

報告3 「核」の連鎖・「難死」の連鎖——小田実『HIROSHIMA』

を讀む
道場 親信